



発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町 3-6  
☎ 0959 (72) 3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

## 「ともに」喜び

主任司祭 中村 満



クリスマスおめでとうございませす。一足早い祝辞ですが、今年もこの時節を迎えました。幼子としてお生まれになる救い主イエス様が私達のもとを訪れ、祝福し、神の子供として歩いていくことができるよう強めて下さいますように。

今年もコロナ禍にあつて大勢で集うことができず、教会行事等も中止にせざるを得ませんでした。コロナに怯えながら過ごした一年と言えるかもしれない。新しい年はコロナが治まり、各種の集いができ「ともに」を実感できますよう願っています。神との繋がりが、人々との繋がりを共に生きるのが信仰者の生き方で

あるとすれば、コロナによって傷ついた絆が癒され、今まで以上に絆が強められ、共に生きることが大切にされるようになって欲しいと思っています。

さて、クリスマスでイエス様の誕生を祝いますが、イエス様をいかに人々に紹介し、伝えるかは、私達にとつては生涯の使命、責務です。イエス様を私達に紹介してくれたのは、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四人の福音史家ですが、四人とも私達と同じく時間の中でそれぞれの人生を生きただ人です。四人は、どうしてもイエス様のことを同時代の人々に、後代の人々に

に伝えたくて福音書をまとめました。そのため、四人はそれぞれの理解のもとに、それぞれの信仰生活を背景にして、イエス様の生涯を紹介しています。私達も四福音書に親しみ、出会う人々にイエス様を紹介できればと思います。

ところで、二〇二三年にローマで開かれる第16回シノドス（世界代表司教会議第16回通常総会）の準備が今年の十月から始まりました。今回のテーマは「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」です。三千年期の教会と求めているあり方を神がどのように求めておられるかを探り、学び、共に歩もうとするものです。教会は本来、「ともに歩むもの」との自己理解の原点に立ち戻り、いかに「ともに」を実現し、生きることができるかと共に考え、実行していかうと呼びかけています。

「ともに」という視点で考える時、共にの原点、源泉がキリストにあることを思い起こすことは必須です。マタイ福音史家は、生まれてくる幼子はインマヌエルと呼ばれる。この名は「神は私達とともにいる」という意味であると救い主の誕生に際して1章23節で伝えています。

そして、結びの章となる28章20節では、復活し弟子たちに現れたイエス様が、弟子たちに語り掛けた最後の言葉として「私は世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」と結んでいます。マタイは福音の最初と最後に「ともにいる」を配置し、中央で、ともにいる救い主の働きを具体的に紹介し、イエス様の全体像を解き明かしていると言われます。

クリスマス喜びの源が、「ともにいてくださる」ことにあることを実感するならば、その喜びは小さくなることなく大きくなり連綿と続くでしょう。ともにの喜びが私たち一人一人にもたらされるようお祈りいたします。



助任司祭 稲田祐馬

「待たなくてよい社会になった。待つことができな社会になった。」哲学者である鷲田清一氏は「待つ」という観点から現代をそのように評しています。確かに私たちは「待つ」時、「待たされる」と思うこと

もしばしばあるかもしれません。私もエレナでレジにできている長蛇の列を見てうわあとと思い、次回は時間をずらそうと決心しながら、できるだけ早く順番が回ってきそうな列を見定めたり、ネット通販を利用する時、同じ値段だったらより早く着くのではないかと探したり、Youtubeを見る時も、たった15秒のCMなのにスキップできなかつたらちよつと苛立ったりしてしまします。何事も「早さ」が正義とも言ってしまうような現代、音楽もその影響を受けているのか、令和のヒット曲はイントロがなく、すぐ歌詞が入る曲が多くあるそうです。以前書いた「うっせえわ」も実はイントロなしですぐに歌詞が入る曲の一つだったりします。ちなみに山下達郎の「クリスマス・イブ」のイントロは一分ほどあるそうですよ。

踏まえたうえで「待つ」ということを思いめぐらしてみたいのです。冒頭に紹介した鷲田氏は、企業の様々な活動に共通の接頭辞がつけるということに気づき驚愕したといえます。すなわち、プロジェクト、プロフィール(利益)、プロスペクト(見込み)、プログラム(計画) etc...。この共通してある「プロ」は、「前に」「先に」「あらかじめ」という意味を持ちます。それは、現在という場所で想定される未来から逆算したものでしかなく、「プロ」という前のめりの姿勢は待つことを拒む姿勢だと指摘しています。そして「待つことには、偶然の(想定外の)働きに期待することが含まれている。それを先に囲い込んではいけません。つまり、ひとはその外部にいかにもみずから開きつばなしにしておけるか、それが『待つ』に賭けられている。ただし、みずから開いたままにしておくには、閉じることへの警戒以上に努めがある(傍点引用者)」と述べています。

待降節はいつもマリア様のようでありたいです。マリア様はいつも開いていました。もしマリア様が「プロ(先に)」の姿勢だったら……。もしかししたら、馬小屋で産んだことを後悔したかもしれません。もっとちゃんとしたところで産んであげたかった。しかし、マリア様はいつも開いていました。マリア様は決して自分の計画に閉じることなく、神さまの計画に開いていました。そしてマリア様は救い主の誕生、救い主との出会いに後悔ではなく、大きな喜びに包まれたのでした。そしてそれはきっと私たちもそうです。いつも開かれていたら、イエス様と出会ったとき、いろんな申し訳なさなんていうものは吹き飛んで、その出会いの喜びに夢中になることでしょう。よいクリスマス。

の青年の集いが行われました。司祭団六名、シスター方六名、青年たち四名、合計十六名の参加でした。初めは参加者全員でソフトバレーをしながら皆で汗をかき、最後に、シスター方のリードでテゼの祈りを行い、青年たちのために祈るという交流会となりました。特にバレーでは、人生で初めてバレーをしただけという青年もいて、慣れないながらもボールを追いかける姿、ボールを拾おうとする姿や、青年たちもさることながら、司祭団やシスター方が誰よりも楽しんでるような姿が印象的でした。

今年は、コロナの影響もあったせいか、参加できる青年たちが少なかったですが、次回はコロナが落ち着いて、今年よりもさらに多くの下五島地区の青年たちが参加してくれることを祈っています。

さて、実は私は今、福江教会青年会の担当司祭と、下五島地区の青少年の担当司祭を務めています。福江教会青年会担当司祭の前任者の稲田神父様もそうであったと思います。皆さん、二十〜三十代の方々です。中には、私よりも年上の方だっという方もいます。そういった中であって、司祭としての私に

この「せっかち」な現代において、私たちはこの時期、救い主の誕生を「待ち」ます。私はこの「待つ」というテーマが好きですが、しかし「アドベント」。Adは、～の方へ、ventは「来る」ですから、私たちの方へ救い主が来る!という意味があるのがこの待降節です。神さまの圧倒的な行為に重点があることを忘れてはなりません。それを

わたしたちは、「計り知れない」神さまのことを、「計り知れる」神さまに貶めてしまう危険にいつもさらされています。神さまのことを先に囲い込み、そのイメージにとらわれ閉じてしまおうのです。



助任司祭 西田祐尚

先日、十一月十四日(日)十四時から五島市民体育館にて下五島地区

できることとは何だろうといつも考えています。司祭として、同じ年代の若人として、どうすればみんなとキリストに生かされている喜び、神さまとの出会いの喜びを共有できるか、味わうことができるか、それをいつも考えています。答えはまだ、模索中です。ですが、(牧者らしからぬ私のような者でも)青年会の集まりになったら温かく迎えてくれる青年たちや積極的に青年会を盛り上げようと奮闘してくださるシスター方には、いつも心から感謝しております。ありがとうございます。

福江の青年会は、いつも私たちと共におられるキリストを中心として、これからも精力的に活動して参ります。私自身も、青年たちとともに歩みながら、自分なりの答えをこれから模索し続けていきたいと思えます。私たちの上に、神様の祝福と恵みがあるように、皆様、これからもお祈りください。

また、次回の下五島地区の青年の集いは未定ですが、開催する場合は様々な形で告知させて頂きますので、皆様の周りの若い方々に、お声かけくださいませう、お願い申し上げます。もちろん、青年会もメンバーを募集していますので、よろしくお願いたします。

## 稲田神父様 霊名のお祝い



九月十九日、  
新型コロナウイルス感染症の急拡大によって自粛されていた公

開ミサがようやく再開された日曜日の二番ミサにて、シモン稲田祐馬神父様の霊名のお祝い式が行われた。信徒代表からお祝いの言葉と花束が贈られた。

稲田神父様は「久しぶりに沢山の人の前に立つので、緊張で体がこわばって腰が痛いです。」「今日はありがとうございました。コロナ禍で何をしたらいいかわからないですが、子供の元気な姿を見ながら頑張っていましたらと思えます。」と述べられた。福江教会に赴任されてからずっとコロナ禍で、十分な司牧が叶わないもどかしさもあるでしょうが、子供達や青年会など若い信徒への関わりを通して興味が深まる事を期待しています！



## シモンはシモンでも…

稲田神父様の霊名のシモンとは、いわゆる十二使徒のシモンではなく、キレネ(現在のリビア)人のシモンという人だそうです。キレネからエルサレムに巡礼のために来ていたシモンは、イエス様の受難の場に遭遇しローマ兵士に十字架を背負わされたのです。その後、イエス様の復活、昇天を経ていく中で、イエス様の十字架を背負つ

## 死者のためのミサ

十一月三日(祝)午後三時に桐ヶ丘墓地にて、死者のためのミサが行われた。ミサに先立って、午後一時より墓地の清掃と除草、植栽の剪定が信徒、神父様、シスター方によって行われた。コロナ禍で昨年実施されなかったため、生い茂った木々に苦戦しながらもなんとか作業を終えることが出来た。

ミサには信徒、シスターが五十人ほど集まった。ミサの中で中村神父様は「ある方より『身内の葬儀後、遺骨を散骨していいですか?』と相談され納骨をすすめた。それは、後でその人を思い祈りたい時に何処に行つてどこで祈ればいいのかと思う人もいるから。」「死者を思う事は、自

た人物として有名な存在となり、その名は子孫まで影響を受けました。そして、およそ三百年後にイエス様が磔にされた十字架が発見されたのをきっかけに十字架への崇敬が盛んになったそうです。そしてこの十字架が発見された日である九月十四日を、十字架称賛の日としてお祝いし、崇敬に値する十字架を背負ったキレネのシモンを称えて、九月十四日が霊名のお祝い日となったのです。

分を思う事、自身を振り返る事です。死者の月を迎えて、亡くなった人との関わりを思い起こす機会として下さい。」と述べられた。



例年行われている墓地ミサも、参加者は減る一方である。墓参のタイミングは人それぞれであろうが、死者を思って集い少し時間をかけて掃除をし、ミサを通して思い出の中にある大切な人を思う事は、自分の人生を振り返る、少し立ち止まって心の整理をする良い機会と考える。来年はより多くの方に参加していただきたい。

# 教会外塀・トイレ工事 進捗状況

今年の七月より始まった福江教会の外塀とトイレの改修工事も、順調に進行しています。外塀については、以前のブロック塀からすっきりとしたフェンスに生まれ変わりました。表通りに面した部分はほぼ完成しており、現在は隣地に面した部分を施工中です。

トイレについては、写真のように外側のコンクリート部分は出来上がっている状態です。向かって右手前が男子トイレ、左側が多目的トイレと女子トイレとなるようです。年末までには両工事とも終了を目指して頑張っています。なお、倉庫については、来年の三月末に現在の仮倉庫の場所に設置される予定です。



今回の工事に際し、信徒のみならずより貴重な募金を賜り本当にありがとうございます。おかげ様で、将来の信徒たちに良い設備が残すことが出来そうですね！

## 小学生・中学生黙想会

十一月三日に中学生、二三日に小学生の黙想会が行われた。コロナ禍のため例年より遅い時期の開催となったが、多くの子どもたちが参加した。

中学生の黙想会では、「ヨセフ年について」「脳科学からみる祈り」

について神父様のお話があり、その後テゼの祈りの説明後、実際にテゼの祈りを体験。最後に感謝のミサが行われた。



小学生の黙想会も、ヨセフ年にちなんだ神父様のお話があり、その後作業にて教会と町並みを制作した(作品は教会聖堂後方に展示さ



## 青年会ミニバザー

十一月二十八日(日)二番ミサ後、教会前にて青年会ミニバザーが行われた。冷たい強風が吹く中、青年会メンバー六名はサポートのシスターの方の協力のもと売り子として活動した。商品は、ロザリオ、ベール入れ、ロザリオ入れの他、クリスマスリースやオーナメントなどがあり、多くの方が購入して下さいました。

コロナ禍で人との関係が希薄化する中、ミニバザーを通して繋がりを大切にする事を目的として開かれた。今回の収益金は、青年会の活動資金とカリタスジャパンへの寄付になるとの事。寒さの中、凍えながら青年会メンバーは頑張りました。今後とも、青年会の活動へのご協力と応援をお願いします！



小、中学校の時期の信仰教育は、大人になってからの人生に少なからず影響を与えることでしょう。神父様、カテキスタ、信仰教育委員会の皆さんに感謝いたします。

## お知らせ



### ◆クリスマス〜年末年始の予定

#### 《クリスマス募金》

12月24日(金) 午後6時から

※聖堂前で行います。ご協力をお願いします。

#### 《クリスマスミサ》

12月24日(金) 午後7時

※ミサ後のぜんざいサービスは、感染防止のため今年もお休みします。

12月25日(土) 午前9時

午後7時

#### 《年末ミサ》

12月31日(金) 午前6時

午後7時

(神の母聖マリア)

#### 《年始ミサ》

1月1日(土) 午前9時

1月2日(日) 午前6時

午前9時

1月3日(月) 午前6時

#### ◆今後の予定

12月19日(日)

二番ミサ、初聖体式

1月9日(日) 午後1時

馬小屋、イルミネーション撤去

1月16日(日)

下五島地区合同堅信式(予定)

1月25日(火)

司祭団マラソン大会(予定)